

特集

# 包み込むように



## 発達を包括的に支援する

生まれつきの発達の違い（特性）により生活上の支障が出ている場合に「発達障がい」と診断されることがあります。日本では約10人に1人がその傾向にあるともいわれています。

発達障がいには、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如多動症（ADHD）、限局性学習症（LD）などがありますが、診断名が同じでも示す特性や困り事は一人一人違います。

生じる困難さや生きづらさは、個々の発達の特性を踏まえた適切な理解と対応によって軽減できます。そのためには早い時期からその人に関わる全ての人による支援や環境調整がとても大切になります。

そんな中、8月にオープンする「はぐくみサポートステーション」は、新設された発達支援センターと既存の施設が一緒になることで連携がよりスムーズになり、さまざまな場面で包括的な支援体制が整っています。

8月1日オープン

# はぐくみサポートステーション



## 共に育ち合う

8月に文京町にオープンする「はぐくみサポートステーション」は、正式名称を「宇和島市発達・教育等支援施設」といいます。「宇和島市発達支援センター」「あけぼの園」「こども支援教室わかたけ」の複合施設となっていて、通称「はぐサポ」といいます。

はぐサポは、発達や育ちが気になる人や障がいなどによりサポートを必要とする人、不登校やその傾向にある児童生徒に対して、3施設の強みを生かしながら総合的・複合的に支援する施設です。

各施設に共通するのは、障がいの有無にかかわらず発達の多様性を尊重していることです。幼い頃から「共に育ち合う」ことを大切にし、当事者や親子の成長を地域の中で支え、このまちで安心して暮らせるように支援しています。

また、はぐサポが中心となって地域の人や関係機関とつながることで、理解者や支援者を増やし、協力しながら支え合えるまちづくりを目指していきます。

問 宇和島市発達支援セン

ター ☎ 4918889



ID:0104697



# 地域に無くてはならない場所を目指して

多くの人たちの尽力でようやく完成した「はぐくみサポートステーション」。これに先駆けて5月にオープンした「発達支援センター」、これまでそれぞれの活動を続けてきた「あけぼの園」と「わかたけ」。新オープンを迎えるに当たっての思いや期待について、それぞれの関係者に話を聞きました。

## 「自立」をサポートできる場所に

発達支援センター センター長 上杉瑞穂さん



当センターは公認心理師、社会福祉士、保育士、保健師、教員を配置し、年齢を問わず発達や育ちが気になる人やその保護者、支援者からの相談に対応しています。発達障がいの原因は明確には解明されていませんが、脳の機能障がいによるとされ、しつけや育て方が原因ではないことが分かっています。誰しも発達における特別な個性を持っていますが、生活に支障がなければ障がいはなりません。発達に偏りのある子は一般的な環境では失敗しやすい「困った子」と誤解されがちですが、一番困っているのは本人

です。当センターでは、どうしたら良いかを考える前に、なぜそのように行動するのかを支援者の皆さんと一緒に考えます。「頑張ればできる」と周りが思っていると、その子は苦しみます。できない理由や困っている理由を周りが正しく理解できれば、二次的な障がいや予防し、成長するための工夫や配慮すべき点が見えてきます。

学校は社会に出ていくための土台を作る場所。これは精神科医で医学博士の本田秀夫先生の言葉です。学校卒業後も長い人生が続きます。当センターでは「自分らしく自立した生活を送ることのできる地域づくり」を目指していますが、自立とは全て一人でできるということではなく、困った時は誰かに頼るといふ援助要請の力をつけるサポートも大変重要です。

人のあり方はさまざまです。違いを認め、過ごしやすい環境を整えていくのが、私たち支援者の役割だと感じています。そして支援者同士も、互いの立場を尊重しつつ、助け合い、支え合っていきたいと思います。



# 地域の子どもたちの健やかな成長を願って

市立宇和島病院 小児科 林正俊先生



平成9年に市立宇和島病院小児科に赴任しました。赴任して驚いたことは、市立宇和島病院としての自負と誇りを持って、どんな疾患も外の病院に送ることなく地域の中で完結していたことでした。赴任当時は感染症でいっぱいだった小児科外来ですが、その後の少子化と共に、現在は患者数が激減しています。しかし少なくともった子どもたちに対する親御さんの思いは、その分強くなっています。医学の進歩や環境衛生の整備だけでなく、さまざまなワクチンが接種されるようになり、感染症は激減しました。代わりにアレルギーや発達障がいといった領域が、小児医療では大きな問題となっ

てきています。「こども家庭庁」が創設されたように、子育ては国にとつても地域にとつても大きな問題です。少子化と共に核家族化が進み、我が国の子育ての文化が次世代につながりにくくなっています。そこに発達障がいという要素が加われば、育てにくさはさらに厳しいものになります。発達障がいの子どもの数は毎年増え続け、地域では療育が大きなテーマとなっ

てきています。昔は年長の子どもが小さい子どもを引き連れて、稲刈り後の田んぼや山や川で群れて遊んでいました。現在は家の中のゲームや習い事のため、外で遊ぶ子どもを見かけなくなりまし

た。安全に遊ぶところがなく、群れて遊ぶ仲間がいなくなっ

たためです。そういつた環境の変化の中で、いかに健やかに子どもたちを育てていけばいいのか、親御さんは模索されています。

宇和島に赴任して20年余り、子育てに悩む親御さんの姿を数多く見てきました。そんな時この地域で悩みに応えてくれる、あるいは寄り添ってくれる所があればと考えてきました。昔から県や市は地域でそのテーマに取り組んでいました。しかし互いにバラバラで親御さんからは見えにくく、活動が届いていないと感じていました。それぞれの懸命な活動を何とか統合できないか、そして分かりやすく見えやすい形にできないかと、しかるべき人達と共に模索を始めたわけ

です。数年ごとに繰り返し返される異動や定年で、積み上げてきたものを何度も最初から積み替えるながら、幾世代を経てやっと開設にこぎ着けることができました。今まで永くこの地域の子どもたちの発達のために活動を続けてきた「あけぼの園」と、不登校の子どもたちの居場所を作り続けた「わかたけ」が、発達支援センターと合流する形での「はぐくみサポートステーション」です。この「はぐくみサポートステーション」は便利な場所にあり、相談できるスタッフを整えています。市民の皆さまには大いに活用していただきたいと思います。



# 本人と家族の思いに寄り添えるように

あけぼの園 園長 松井祐子さん



持ちに寄り添い、不安を少しでも和らげて子どもと一緒に前に進めるようサポートします。

放課後等デイサービス事業には、小学1〜中学3年生の子どものほか、放課後や長期休業の時間などに通ってきます。将来、社会の中で充実した日々を過ごせるよう、身の回りのことや、人と上手にコミュニケーションをとることができるよう力を養えるよう支援しています。

生活介護事業は、18歳以上の重症心身障がい者が通っています。笑顔で楽しく過ごせるように工夫しながら、季節に合った活動を行っています。移転後は入浴サービスも開始します。

あけぼの園は、発達に心配のある人や障がいのある人が通う児童発達支援、放課後等デイサービス、生活介護の3事業を行っています。保育士や看護師、理学療法士などの専門職がチームとなり、支援を行います。

児童発達支援事業は、未就学の子どもが通っています。子どもが大好きな遊びを通して、一人一人の特性に合わせた支援で発達を促します。また家族の気

今回の移転で、より充実した支援体制が整えられると思います。開所から43年、これまでもそうであったように、これからあけぼの園も利用者の発達をしっかりと支え、家族の思いに寄り添いながら歩んでいける施設でありたいと思います。

問 あけぼの園 ☎ 24-11198

# みんなの「心の居場所」として

こども支援教室わかたけ 室長 三好賢一さん



支援を行っています。私たちは、ここが「安心できる場所」「信頼できる場所」となることが大切だと考えています。また一人一人が目標を持って活動できるようにサポートしています。

今回3つの施設が一緒になることで、スムーズな連携が図れ、きめ細かな対応が可能になると思っています。利用する人たちにとって、より便利な場所となることを願っています。

問 こども支援教室わかたけ ☎ 22-11642

わかたけは、学校でのトラブルや勉強のことなどで不登校になった児童生徒を支援する場所です。平成11年に宇和島市適応指導教室「わかたけ」としてスタートし、今年5月に「はぐくみサポートステーション」内に移転して「こども支援教室わかたけ」として開室しました。

わかたけの目標は、子どもたちの社会的な自立の支援と学校復帰の手助けをすることです。この目標の下、教育相談や学習



# 新たな門出に感謝を込めて

発達障がい児者親の会 ところ根つと・ゆうきの会 会長 長尾 雅美さん



とつらかったのは「障がい児・不登校の子」⇨「普通でない子」という悲観的なフィルターがかかり、一人の子どもとしては見てもらえていないと感じることだったかもしれません。

今から約20〜30年前。我が子たちが生まれたその頃は「発達障がい」の情報がとても少なく、理解できる人や具体的な支援にはさらに出会えない、そんな時代でした。一般的な関わり方ではうまくいかない我が子の成長をどう支えてあげれば良いか分からなかったあの頃。どこに相談しても的確な助言や情報はなく、暗闇を手探りで歩き回るような毎日に悶々としていたように思います。理解しにくさに世間もまた動揺していたのだと今は分かりますが、それよりもつ

地域になりますように、そんな願いを掲げ、たくさんの方の力を借りながら活動を続けてきました。まずは理解者と安心できる相談場所づくりから、と。

それから12年。ようやく完成した「はぐくみサポーターズステーション」にどれだけ多くの人たちが救われるだろうと思うと喜びもひとしおです。今後この施設が、本人の支援ニーズをキャッチして、生きやすくなるための明るい道を照らし、そしてそれを支える伴走者や社会を育むためのステーションとして誰にとっても安心できる場になるよう心から願っています。



## 地域全体で包み込むように

はぐくむの語源は、親鳥がひなを羽で包んで大切に育てることとされています。今回特集したはぐくみサポーターズステーションを通じて、子どもたちを地域全体で包み込むように見守り、共に育ち合っていければと思います。



### 訂正とお詫び

広報うわじま7月号に誤りがありましたので訂正しお詫びします。

- ▶ P 5 小見出し  
誤:しま 正:します。
- ▶ P 7 赤松さん名前  
誤:祐太 正:裕太